令和８年度　第２回地方創生推進委員会グループワーク　議事録

開　催　日　時	令和８年 10 月６日（火）　午前 10 時 55 分～11 時 45 分
開　催　場　所	さとおか防災 コミュニティセンター会議室
グループ名・メンバー	第２グループ 猪井　博登、神出 計（ファシリテーター）、福井　利実、松下　和之、 三浦　瓔子
議　題	① 若年世帯が選択する「多様な生き方」の実現支援 ②「住み続けたい」と思うまちづくり ③ 関係人口の創出（多様な地域資源の有効活用）
議　事　録	■まとめ ・能勢町の豊かな自然環境を生かし、教育や福祉と連携した取組を進めることが重要である。例えば、森林整備や植樹活動を教育活動に取り入れるなど、自然の保全と人材育成を両立する取組が考えられる。 ・少子高齢化が進行する中、能勢町の強みを生かしながら関係人口の創出・拡大を図る必要がある。他地域の先進事例も参考にしながら、能勢町に適した取組を検討していくことが重要である。 ・他地域で見られる、高齢者施設と若者との交流、祭りへの外部参加者の受入れ、自動運転技術の活用などの事例を参考に、能勢町で実現できる、多様な主体が地域と関われる機会を創出することが求められる。例えば、子どもと高齢者との世代間交流を促進し、校外学習等を通じて地域との関わりを深める取組や、能勢町の自然環境と特色ある教育を組み合わせることで、教育移住や子育て世帯の呼び込みにつなげる取組などが考えられる。 ・能勢町の強みや魅力を改めて整理し、それらをどのように活用し、発信していくかについて、今後さらに議論を深めていく必要がある。 ■以下、議事録 委員）　奈良県の山間地域の事例などを踏まえると、人口減少対策として幼児教育の充実が重要である。地域再生の観点からも幼児教育は重要なテーマであり、教育環境をどのように維持していくかを考える必要がある。また、保育士不足への対応や補助金の活用も必要であり、先進事例の視察・研究を行いながら行政が主体的に取り組むべきである。 委員）　能勢町は子どもを育てる環境として大きな可能性を持っており、子育て世代が住みやすいまちとしての魅力を高めるべきである。特色ある教育や独自の手法を取り入れている地域には若い世代が集まる傾向があり、教育を地域の強みとして打ち出すことが重要である。 委員）　教育は重要なテーマである一方、教育だけで地域の活性化が実現できるものではなく、人の流れや雇用など様々な要素が関係している。

事務局）	現在は住民ニーズや社会課題が多様化しており、町としてどこに重点を置いて施策を展開していくかが難しい状況にある。
委員）	能勢町の自然環境は大切な地域資源であり、山林を維持していくことが重要である。一方で、その維持には費用もかかるため、自然をどのように活用していくかを考える必要がある。
委員）	自然を守ることは地域づくりの根本であり、今後の施策を考える上でも重要な視点である。
委員）	自然と教育を結び付けることで能勢町らしい特色を出せるのではないか。
事務局）	ささゆり学園では森林教育を重視しており、すでに自然を活かした教育を実践している。また、移住や定住を検討する人は学校だけではなく周辺環境も含めて地域を評価しており、スクールバスなどの環境も含めて総合的に判断されている。
委員）	成功している自治体の事例を参考にすることは重要であるが、そのまま真似るのではなく、能勢町独自の特色も打ち出していく必要がある。
委員）	区画整理事業についてはパブリックコメント等で反対意見もあるが、企業誘致は地域活性化や雇用確保のために重要である。また、企業誘致が必ずしも自然破壊に直結するものではなく、自然との共存を図りながら進めるべき。
委員）	各地域の地区福祉活動では、「地域から子どもがいなくなった」という声が聞かれる。また、地域活動の担い手となる世話役が高齢化しており、若い世代の福祉活動への関心が低いことが課題となっている。 全国的に町内会や自治会組織が衰退している一方で、能勢町では自治会組織が比較的維持されていることが強みとして挙げられる。 また、若い世代に地域を選んでもらうためには、生活の利便性、仕事、子育て環境などが不可欠であり、それらが不足していることが人口減少につながっている。加えて、公共交通が十分ではない過疎地域では車が不可欠である。 他の市・町では、自動運転バスの活用、または、祭りの神輿の担ぎ手不足が課題となっているようで、外部（町外）から参加者を呼び込んでいる事例などもある。他の市・町の先進事例なども参考に検討し、能勢町を知ってもらう機会を増やすことが必要であると思う。
委員）	高齢者と若い世代の交流は重要であり、学生や若者が介護や福祉の現場を知る機会を増やすべきである。福祉に対する関心を高めることで、将来的に地域

	や高齢者を支える人材の育成につながるのではないかと思う。 　また、「能勢町のために何かしたい」と思える人を増やすためには、地域活動を魅力的で面白いものとして伝える工夫が必要だと感じる。
委員）	若者の参加を促進するためには、ボランティアだけでなく、アルバイトなど一定の対価を支払う仕組みも有効ではないか。
委員）	図書サービスの充実や移動図書館など、住民サービスの向上につながる取組を進めてほしい。
委員）	百歳体操がテレビで取り上げられたように、地域の魅力や取組を発信するうえでメディアの力は非常に大きい。また、能勢町の魅力を外部へ伝えるためには積極的な情報発信が必要である。